2013・8・18 記

沖縄の民衆は闘い続ける！　平和の1議席を死守―参院選の教訓

共同代表（弁護士）池宮城　紀夫

去る７月２１日投開票が行われました第２３回参院選挙は、自民党が圧勝して公明党と共に参院の過半数を制し、衆参両院の「ねじれ」が解消されたと、マスコミは報じました。

マスコミは、今回の参院選挙は「ねじれ」解消があたかも争点かのように報道をたれ流していました。

そもそも、憲法が衆議院と参議院の二院制にしたのは、衆議院で多数を制している政党による国政の専制を参議院の良識によって抑制する機能の役割をもたすためです。したがって、参議院が衆議院と同じ政党会派によって多数を占めることは、参議院の独自性を否定することになります。憲法の精神からしますと、参議院と衆議院が「ねじれている」ことは、むしろ必要なことです。参議院の憲法上の独自性を隠蔽して、自公政権の政策を抵抗なく実施していくために「ねじれ解消」があたかも大きな争点かのようにミスリードされた結果が今回の選挙と言えるかと思います。

今回の真の争点は、安倍政権が実行しようとしている「憲法９６条、９条」などの憲法改悪問題、中国、韓国北朝鮮などアジア近隣諸国に対する挑発的な外交問題、庶民の生活を一層貧困に追い込む消費税値上とＰＴＴ問題でした。しかし、真の争点は隠蔽され、あたかも安倍総理の「アベノミックス」によって、経済が回復し、労働者の賃金も上がるとの幻想に駆り立てられ、自公とその他右翼的な政党に投票した国民が多くいたことには、情けない限りです。しかし、共産党が現行制度で過去最多の８議席を獲得したことは、安倍政権の暴走にストップをかけて行く為に大きな期待がかかっていると言えます。

このような選挙情勢のなかで、特筆すべきは、沖縄戦挙区における糸数慶子さんの当選です。糸数さんは、地元政党である社会大衆党の公認、社民党と共産党とそれぞれ政策協定を結び、生活の党とみどりの党の推薦を受けて立候補しました。実質的な革新統一候補として選挙戦を展開していきました。相手候補は、自民党公認と公明党推薦で、県内のすべての経済団体をバックに企業選挙を展開していました。安倍政権にとっては、普天間基地を辺野古に移転することをアメリカ大統領へ公約しているために、何としてもそれに抵抗してきた「平和の１議席」の糸数慶子さんを落選させなければなりません。そのために、安倍総理はじめ次々と大臣らを送り込み徹底した選挙戦を展開しました。

しかし、基地を押し付け植民地的支配を続ける安倍政権に対する怒りは、頂点に達しています。その具体的県民の回答が「平和の１議席・糸数慶子」の当選です。私たちは、これからもこの沖縄をアジアと世界へ向けた平和の拠点として、抵抗を続けていく覚悟です。